

新しい 学術領域にむけた 教科書シリーズ



メディア学大系のホームページ
<http://taikei.media.teu.ac.jp/>

「『文・理・芸』融合のメディア学部は創立から13年の間、メディア学の体系化に試行錯誤の連続であったが、その経験を通して、メディア学は21世紀の学術・産業・社会・生活のあらゆる面に計り知れない大きなインパクトを与え、学問分野でも重要な位置を占めることを知った」。メディア学体系シリーズの発刊に寄せて、初代学部長・相磯秀夫先生が述べられた言葉である。メディア学部では創設以来、教員自らが先端的な研究を行い、その成果を教育に生かしてきた。そしてそれらの内容をまとめてメディア学の体系化を進めてきた。この成果をもとに2011年にメディア学をまとめた教科書シリーズが計画され、理工学系専門書に定評ある株式会社コロナ社から出版が開始された。記念すべき第1巻のまえがきには次のようにある。「本書で取り扱うメディア学は、社会学の分野で従来から扱われてきたメディア論やメディアコミュニケーション研究の基本概念を包含し、また一方でマルチメディアと呼ぶ画像、映像、音声、文字などのデジタル情報とその処理技術の基礎を包含する」。まさに、メディアという学術領域の創設への意欲が溢れ出るものとなっている。

これに続き、発刊された全10巻は、メディアICT、CGとゲームの技術、ミュージックメディア、コンテンツクリエーション、人とコンピュータの関わり、教育メディアなどの分野で教科書として指定されてきた。その後、メディア学の普及と進歩は目覚ましく、「メディア学大系」もさらに増強が必要になった。そこで、メディアにおける重要な分野である視覚情報の新たな進歩に対応するため、つぎの5巻を刊行することを計画した。すでに第13巻、15巻が刊行されており、講義や演習で活用されている。2018年には、「メディア学」に興味を持つ学生がメディア学全体を見渡すことができ、メディア学大系各巻への橋渡しをも意識した「メディア学キーワードブック」を出版した。現在は、第2期の出版準備が進行中である。今後、メディア学の高度化を支える基礎学問の充実が望まれ、数学、物理、アルゴリズム、データ解析の分野において、メディア学全体の基礎となる教科書4巻の刊行を計画した。発展を続けるメディア分野に対応でき、将来にも活用できるように基礎的内容を扱っている。



タイトル一覧

- 第1巻 「メディア学入門」 飯田仁・近藤邦雄・稲葉竹俊（2013年3月）
「改訂 メディア学入門」 柿本正憲・大淵康成・進藤美希・三上浩司（2020年3月）
- 第2巻 「CGとゲームの技術」 三上浩司・渡辺大地（2016年4月）
- 第3巻 「コンテンツクリエイション」 近藤邦雄・三上浩司（2014年10月）
- 第4巻 「マルチモーダルインタラクション」 榎本美香・飯田仁・相川清明（2013年10月）
- 第5巻 「人とコンピュータの関わり」 太田高志（2018年2月）
- 第6巻 「教育メディア」 稲葉竹俊・松永信介・飯沼瑞穂（2015年4月）
- 第7巻 「コミュニティメディア」 進藤美希（2013年5月）
- 第8巻 「ICTビジネス」 榎俊吾（2015年4月）
- 第9巻 「ミュージックメディア」 大山昌彦・伊藤謙一郎・吉岡英樹（2016年9月）
- 第10巻 「メディアICT」 寺澤卓也・藤澤公也（2013年10月）
- 第11巻 「CGによるシミュレーションと可視化」 菊池司・竹島由里子
- 第12巻 「CG数理の基礎」 柿本正憲
- 第13巻 「音声音響インタフェース実践」 相川清明・大淵康成（2017年3月）
- 第14巻 「映像表現技法」 佐々木和郎・羽田久一・森川美幸
- 第15巻 「視聴覚メディア」 近藤邦雄・相川清明・竹島由里子（2017年6月）
- 第16巻 「メディアのための数学」 松永信介・相川清明・渡辺大地
- 第17巻 「メディアのための物理」 大淵康成・柿本正憲・椿郁子
- 第18巻 「メディアのためのアルゴリズム」 藤澤公也・寺澤卓也・羽田久一
- 第19巻 「メディアのためのデータ解析」 榎本美香・松永信介



メディア学部編「メディア学キーワードブック」
（2018年3月）